

令和3年度第4回 向日市社会教育委員の会議	
日 時	令和4年2月2日（水）午後2時～3時40分
場 所	向日市役所別館 第10会議室
出席委員	高畑委員、植田委員、横田委員、中本委員、河村委員、吉岡委員
欠席委員	永井委員、清水委員、實川委員、梅田委員、安田委員、永田委員
事 務 局	永野教育長、清水教育部長、玉城副部長兼文化資料館長、小田中央公民館長、芦田図書館長、大和天文館長、渡辺文化財調査事務所長、生涯学習課員
内 容	議題1 令和3年度社会教育関係事業報告書について 議題2 令和4年度社会教育指導の重点（案）について 議題3 令和4年度社会教育関係団体への補助金（予算案）について
教育長	○開会挨拶
委員	○挨拶
委員	○議題1 令和3年度社会教育関係事業報告書について —生涯学習課、中央公民館、図書館、文化資料館、天文館、文化財調査事務所事業について順次説明— ＜質 疑＞
委員	全体にわたって共催事業が多くなってきている。人権研修会は随分前からPTAと共催し、今回は健康講座が府立大学と共催という形で実施しているが、参加者数の動向はどうか。共催という形で実施すると参加者は増えるのか。
中央公民館長	健康講座は中央公民館の事業だが、府立大学と府立医科大学との共催という二つがある。これは一応共催という形をとっているが、実際のところは、両大学ともに、こういった公民館の事業に対して、様々な講師を派遣するというような事業を行っていて、その事業に応募し、先生に来ていただき、講演を開催するということである。両事業ともに専門家の先生のお話なので、非常に応募が多く、申し込み初日もしくは二日目で既に満員になるほど人気盛況なところだ。ただ、いかんせん感染拡大があるので、本来なら倍以上の人数でやるべきところだが、これだけ人数を抑えての実施である。近々に予定している事業についても、半日で満員定員に達しており、こういったテーマについて市民の方は非常に関心があるという印象を受けている。

委員	<p>人権研修会においても、以前は単独でやっていたが、PTA と共催で実施してからは参加人員、或いは申し込み人員が増えてきたと聞いている。今の話を含め、共催というのは一つの方向性かと思う。あらゆる事業において、共催実施をこれからも、考えていけば、更に参加者が多くなって、より市民に対してサービスも行き届くかと思う。</p>
委員	<p>同じ共催でも、中央公民館の府立大学との共催と、生涯学習課の人権研修や家庭教育講座の、PTA 連絡協議会や、青少年健全育成連絡協議会との共催は少し意味合いが違う。中央公民館の所管分は、専門家を講師に招いて、市民の関心の高いテーマを取り上げられていて、参加の希望者が多いということだ。人権研修などの PTA 連絡協議会やその青少年健全育成連絡協議会との共催というのは、PTA の方や青少年健全育成連絡協議会の方が参加してもらえると目的もあり、共催していると理解してよろしいか。</p>
生涯学習課員	<p>たくさんの方にご参加いただきたいということもあり、共催として実施しているが、ただ一方で、そういった各種団体の中で子供たちの健全育成に向けて、活動されているので、講演会を通して、少しでも知識の幅や、スキルの向上、研修を兼ねて聴講いただければという思いもあり、実施している。</p>
委員	<p>人権研修会に関して感想を述べさせていただく。私は今年度の人権研修の 1 回目、2 回目どちらも参加した。1 回目は同和問題を取り上げられ、定番というか、PTA 連絡協議会と共催するという意味も、同和教育を、いろんな世代の人たちに知ってもらいたいという目的で、よく理解できるし効果的だと思っている。ただ 2 回目の人権研修会は、ネットトラブルに関連する人権侵害がテーマだったが、確かにスマートフォンなど情報機器にまつわる人権課題が現在増えてきている。インターネットによる人権侵害があり、人権の課題ではあるけれども、講演の印象としては、正しい使い方という点に重きを置いたように感じた。講師の先生のお話も上手で、聞きやすく、とてもいい研修会だったという印象はあるが、これは人権研修だったのかと疑問が残った。</p> <p>自分がそのような人権侵害をしないために、されないために、例えばスマートフォンで、自分の安全を守るとか正しい使い方を、親が学んで子供たちにも学んでもらいたい点については、とても効果的で有効であると思ったけれども、PTA 連絡協議会と共催となると、今の保護者の関心事を人権研修のテーマに取り上げていく傾向になるのだろうかと思った。人権の課題はネットトラブルに限らず、様々あると思うので、PTA の方に参加してもらうにしても、新たな発見や新たなことを学ぶ研修の場になるように検討されたい。必ずしも子育て世代の人たちだけでなく、いろんな世代の人たちに向けた人権研修を検討していただきたい。今年度の事業実施内容を見ていて、それぞれの内容を見ると、PTA との共催は人権研修会ではなく、家庭教育講座を共催の形で実施するものもよいのではないかと思う。</p>
生涯学習課員	<p>来年度実施の参考にさせていただく。</p>
委員	<p>図書館、文化資料館、天文館においてはコロナ禍の中で、盛りだくさんな企画を立案されて、実施されていて、それに対して敬意を表したいと思う。例えば天文館だが、非常に盛りだくさんイベントがあつて先ほどのお話伺っているとほとんど定員になるとの</p>

	<p>ことだが、定員超過して断るといったことや、参加希望が多く、先着順や抽選といったことは起こっているのか。</p>
天文館長	<p>観望会については、往復はがきによる申し込みで抽選制にしている。夏の時期は、観る天体が多いので人気があり、大体2倍ぐらいの申込数のため、抽選で決めている。ただ、冬はあまり観える天体がないので、参加希望の皆さん全員が来ていただける状況である。その他のものについては、電話による先着順で申し込み決定しており、定員に達した時点で、お断りせざるをえないという状況である。</p>
委員	<p>天文館における現在の事業内容、稼働率はどれぐらいを見ているか。</p>
天文館長	<p>まず、プラネタリウムの投影については、プラネタリウム定員が80名、両脇の別グループの方とは、2席間をおいて1列ごとに着席してもらっている。そのグループの人数にもよるが、毎回席を指定するので、大体、最大で25名程度に減らしている。</p> <p>観望会についても、屋上や望遠鏡のある部屋で見学するグループと、プラネタリウムで、その日の星空の解説を見ていただくグループとに分け、それぞれ12名程度で、25名を定員にしているので、実際入っていただける人数の半分以下となっている。講座も、大体半分ぐらいの定員で、スペースをあけて、密にならないような配慮をして実施している。</p>
委員	<p>特にコロナ禍だから、定員をやむなく押さえるというところで、定員を下げざるをえないというところがあると思うが、抽選とか、2倍以上の申し込みがあつて半分断るとか、そういう状況は市民にとっては残念なことだ。定員に余裕がまだあれば、もう少し拡大してもらいたい。検討お願いしたい。</p>
天文館長	<p>観望会については市外の方の参加割合が高く、市内の方を優先できる方法がないか模索している。</p>
委員	<p>定員に関連して、図書館のおはなし会も申し込み制と説明にあったが、図書館においても定員以上の申し込みがあつたことはあるか。</p>
図書館長	<p>定員15名で、おはなしひろばとおはなし会を実施しているが、コロナ感染症の影響のため定員まで達することはあまりない。</p>
委員	<p>天文館に関してプラネタリウムの入場者が少ない。いつも2人か3人、それより少し多いくらいというような感じで、あんなにすばらしい設備があつて、うまく活用できていないのはもったいない。例えば、企業がこのような開催するとなれば大変な赤字だ。いつも職員の方が一生懸命やっておられるのはわかるが、ただ人が増えない。もう一つ魅力を感じないからではないか。同じことの繰り返しになっているような感がある。もう一工夫要るのではないか。それから観望会では定員を超えていると説明があつた。定員の2倍3倍とは素晴らしいことだ。これは今後も継続を希望するが、やはり参加希望者の参加を叶える方向で、努力して欲しい。プラネタリウムでの一般投影は大体同じものだが、内容を変えるというのはなかなか難しいと思うが、同じものが続くと、飽きた</p>

<p>天文館長</p> <p>委員</p> <p>委員</p> <p>図書館長</p> <p>委員</p> <p>委員</p>	<p>感じになる。この点においても一工夫をしていただきたい。プラネタリウムと何か星の話を抱き合わせにするなど、プラネタリウムを観た人が観に来てよかったなと思えるような改善を希望する。</p> <p>委員ご指摘のとおり、平日の水曜日と木曜日の昼から各1回投影はしていて、確かに言われたとおり、観覧者数は1名、2名ということも多い。ただ土日に関しては夏休み期間中、10人、20人ということが多く。今はコロナの蔓延防止措置適用期間でもあり、外出を控えておられて参加者は少ない状況だ。投影の番組については、今年については合計3番組、子ども向けの番組を1番組と一般向けの2番組を投影している。</p> <p>投影回数を減らして、かつ各番組を購入費用は、3本で年間300万ぐらいかかる。投影回数を減らすと1回当たりの単価が上がってしまい、できるだけ新しく購入したものを投影したいということもあり、以前ならば年間投影回数が多かったので、その間を見て、すでに天文館が購入し、保有している番組が10番組程度あるので、順番に投影して、変化はつけていたが、今年については、そういう機会が少なくなっているというのは委員のご指摘のとおりだ。まず全体の投影回数をふやせれば、以前と同様な実施も可能と来年度考えているので、変化をつけていきたい。</p> <p>平日の観覧者が少なくても、平日実施する意義がある。土日には行けないので、平日にという人やこのコロナ禍なので、人の多い時を避けたいという市民もいるだろう。平日の観覧機会は必要だと思う。いろいろと工夫して運営されているのでありがたいと思う。今後に期待する。</p> <p>図書館の常設展示で渡邊武コレクション展というのがあるが、これはもう相当歴史があり、長い間常設されているのではないかと思うが、この方の代わりになるような方がいて、それを展示できるというようなこと、或いは品物というのはないか。</p> <p>渡邊武さんは、向日市に住んでおられた薬学博士で、図書館の当時の館長と親交もあり、その関係で、全国で収集された椿の工芸品などを寄贈いただいた経緯がある。図書館としては美術工芸品を持っていることは全国的にも珍しく、広く来館者に見ていただくよう常設展示をしており、またおおむね5年に1度の頻度で展覧会を開催している。他の方の展示に変えるということは今のところ、考えていない。</p> <p>一般的なその庶民感覚としての観点だと少し長いのではと感じるが、そういう経緯があるとか、歴史的な価値があるのであれば、現状のままでよい。</p> <p>社会教育の事業はもともと、対面的また人と触れ合って成立することが多いと思われる。このコロナの時代では非常に厳しいものがあると思うが、事業が全滅してもおかしくない中、いろいろと工夫していただいて、やってもらっていると思う。コロナも当初から比べて性格・特性が変わってきたところがある。今のオミクロンはある程度軽症だと言われていることもあるので、ぜひその時々コロナの特性を踏まえて、積極的に事業をやっただけならと思う。リモートは効果が出てこないことがあると思うのでぜひ、コロナを予防しながらぜひ対面的な事業の実施を市民のためをお願いしたい。</p>
---	--

委員	<p>スポーツの部門の事業がほとんど中止である。各施設の事業報告を聞いていると、工夫して開催しているところがほとんどだ。ところが、スポーツ部門は野外開催もあるにかかわらず、中止が多い。解せないところがある。スポーツでも工夫しだいで開催できるスポーツ、競技もあると思うので、新年度は工夫し皆さんが、スポーツ活動できるようなものを考えていただければありがたい。取り組みをお願いしたい。</p>
委員	<p>スポーツに関してやはり、どうしても参加人数が多くなるということが、やむなく中止にされる理由なのか。</p>
教育部長	<p>日常生活では、感染防止対策でしっかりマスクをつけ感染予防をしているが、やはりスポーツする時はマスクを外すケースが多い。その際は感染のリスクがある。現在のオミクロンで言えば、感染期が短いということもあり、しっかりマスクをしていたら感染予防になると言われている。しかし今後はコロナの実態を踏まえながら、日常の社会活動とともに、スポーツ活動を実施していく必要があるかと考えている。委員ご指摘を踏まえ、しっかりと考えていきたいと思っている。</p>
委員	<p>社会教育関係事業報告書から、コロナ禍の中で、実施できることを実施できるときに精一杯やってくださっていることが、とても伝わってきた。</p>
生涯学習課員	<p>○議題2 令和4年度社会教育指導の重点(案)について ー「社会教育指導の重点」(案)について説明ー <質 疑></p>
委員	<p>スポーツ活動の推進に新たに付け加えられた項目(超高齢社会において健康で自立した生活を送れるよう、健康寿命の延伸に向けた取組の推進)について、具体的にどういうことを考えての追加なのか、関連する取り組みがあるのか伺いたい。またゆめパレアについて今年4月から休館が予定されていると聞いているが、今後ゆめパレアにかわる施設や、スポーツ的な取り組みができる活動の存続が必要なのではないか。ゆめパレアについては、多分市民サービス部が、直接の担当部署だと思うが、もしお答えできるものがあればお願いしたい。</p>
教育部長	<p>委員のご質問だが、スポーツ推進計画の中において、これから超高齢社会を迎えるにあたり、自立した生活を送るためにはいきいきとした健康の維持が必要と思っており、健康で自立した生活を送れるよう、健康寿命の延伸に向けた取り組みの推進ということ掲げている。</p> <p>具体的にはご承知の通り、スポーツ事業については現在、スポーツ文化協会と連携しながら実施しているところであり、この推進計画を踏まえ、来年度に実施計画される事業がある。一つには健康ひろばという事業だが、60歳以上の方を対象にしたもので月1回か2回、筋力トレーニングやウォーキングを実施していくものであり、市民に参加していただき、健康で生活できるように、そういった取り組みを進めていきたいと思っている。ゆめパレアについては、市民サービス部が所管で市民から意見を聞きながら取</p>

	<p>り組んでいるが、確かに委員ご指摘のとおり、市民が身近で運動できる場所、例えば体育館もそうだが、そういう場所を確保することは必要であると考えている。</p> <p>所管の領域はあるが、市民の健康に貢献する環境というのは必要と思っており、今後市として考えていきたいと思っている。市民の健康を守る環境整備、環境充実について引き続いて取り組んでいきたいと思っている。</p>
委員	<p>超高齢社会とは高齢者を対象にするということなので、例えば高齢介護課と生涯学習課が連携をするなど、課の垣根を越えて、何か連携されるようなことは考えているのか。</p>
教育部長	<p>高齢介護課と連携するという今のところは考えていないが、今後はこういった視点が重要なので、連携して効率的に実施できるとか、或いは市民サービスに繋がるということがあれば、考えていきたいと思っている。</p>
委員	<p>超高齢社会というこの言葉の定義だが、いわゆる人口に占める割合を下から言うと、高齢化社会、高齢社会、超高齢社会だと思うが、このあたりの定義をしっかり押さえて、この超高齢という表現を使うのかどうか聞きたい。</p> <p>また現在の向日市の65歳以上は全人口において何%ぐらいか。そのあたりの実パーセントが、その文言の基準になっているのか。私が社会教育に携わっていた頃は高齢化社会、高齢社会に結びついていく時代だったが、超がつくことはその頃はなかった。</p>
委員	<p>定義が必要だと思われる。超高齢社会というのは今そうなのか、もしくは数年先に超高齢社会になるということなのか。いつ時点での超高齢社会なのか、曖昧な感がある。</p>
教育部長	<p>一般的に定義されているのは高齢化社会が7%、高齢社会は14%、超高齢社会は21%である。現状の向日市では約26%になっており、現時点で既に超高齢社会に達している状況であり、また京都府のスポーツ推進計画においても超高齢社会に向けた計画の重要性を示されていることから、これらを踏まえて新たに追加した。</p>
生涯学習課員	<p>○議題3 令和4年度社会教育関係団体への補助金（予算案）について —小中学校PTA、青少年健全育成関係団体、子ども会、スポーツ関係団体への補助金交付について説明— <質 疑></p>
教育部長	<p>まだ予算として固まってはならず、案としてご承知おきいただきたい。</p>
委員	<p>毎回、議論になるのだが、向日市スポーツ文化協会の活動の目的、趣旨の中に、「文化」も入っているが、実施内容をみると文化的な意味合いの事業はない。ただ対象事業にもものづくり体験教室という事業があるが、これは少し文化的な意味合いが薄いという気がする。よく議論になるがいかがなものか。</p>
生涯学習課員	<p>補助金に関しては、今年度の第2回の社会教育委員の会でも議論いただいたところで</p>

<p>文化財調査 事務所長</p>	<p>ある。今話されたとおり、スポーツ文化協会の事業の中に文化的な事業があるかということだが、資料にも記載しているとおり、ものづくりの体験講座は、コロナの関係はあるが今でも行われている。今年度実施した内容としては、生け花体験や巾着づくり、お正月の飾りづくりが行われた。全体を通してみると、決して多くはない、事業の数もしくは予算額なのかもしれないが、多少であったとしても、実施はされていると伺っている。</p> <p>委員から一昨年からそのようなご意見をいただき、文化財調査事務所ではスポーツ文化協会と協議し、体育館の場を利用して講演会、また社会教育関係事業報告書の21ページ上から2行目に記載の「ふるさと発見どきどきデイ」など、共同でいろんな事業をやるように心がけているところである。そして去年は、エア遊具を設置し、長岡京のお話と幼稚園の園児たちと遊びと学習を行ったが、コロナの関係で今年はできなかった。委員ご指摘の文化に関する事業を文化、スポーツの両方面から共同で行う契機を増やしているところだ。</p>
<p>委員</p>	<p>一応、向日市スポーツ文化協会と名を打っているわけだから、協会の目的趣旨の中には、例えば「体力づくり文化活動事業」などと「文化活動」という文言が入った方がよりわかりやすいと思う。検討を願いたい。</p> <p>それからもう1点、向日市スポーツ文化協会の中の主な補助対象事業の中で、加盟団体育成支援22団体とあるが、どのような団体を指すのか。</p>
<p>教育部長</p>	<p>スポーツ文化協会の文化事業面について、いつもご指摘いただいているが、スポーツ文化協会でも毎年少しずつでも、文化面で何か行いたいと計画されていて、令和3年度から新たな指定管理期間が始まっており、今後の5年間の中で新たな取り組みを予定されている。</p> <p>22団体は、各地区の体育振興会などである。</p>
<p>委員</p>	<p>今年度第2回目の委員会の時に、しっかり補助金のことを議論したが、まだ腑に落ちないことがある。例えば社会教育関係のところだと、全部運営補助金となっているが、一方で主な補助対象事業とも書いてある。これは少し意味がわからなくなる。運営補助金とは、その団体の社会教育活動はこういったもので、その団体の運営に対して補助金を補助するという意味ではないのか。そうするとその対象事業となると事業補助金ではないのかと見える。この表の作り方の問題なのかもしれないが、このあたりが腑に落ちない部分である。いかがか。</p>
<p>教育部長</p>	<p>スポーツ振興関係のところでは、運営・事業の両方の補助金が入っている。事業補助金の場合は、対象事業は必要なので載せている。委員ご指摘のとおり、社会教育関係においての運営補助金についても事業の内容を明記するために、結果統一した様式にしている。様式については、検討したい。</p>
<p>委員</p>	<p>社会教育委員の会議において補助金に関して、これまで第2回と今回の第4回で議題として取り上げられている。第2回は年度が始まってからの会議なので、既に交付しているもの、今後交付予定のものもある。今年の補助金についての意見、そして来年度に</p>

<p>教育部長</p>	<p>むけての意見を求められているのが第2回で補助金を取り上げる主旨だと理解している。また第4回は来年度予算案の提示のみなのか。第4回と第2回、それぞれで取り上げる主旨としては、どのように違うのか。</p> <p>今回の4回目はあくまでも予算案であり、予算案の段階でお示しし、ご意見をいただいている。そのため、新年度が始まり、予算額が確定した後の第2回目で、既に動き出している事業もあるが、再度ご意見をいただいている。</p>
<p>委員</p>	<p>年2回、定例として社会教育委員の意見を聞いてくださっているという理解でよろしいか。</p>
<p>教育部長</p>	<p>お見込みのとおりである。</p>
<p>委員</p>	<p>今年度は、ひまわり体操競技大会実行委員会の方は、コロナ感染防止により、結局大会がなかったのが執行されなかったもので間違いはないか。</p>
<p>生涯学習課員</p>	<p>委員お見込みのとおり、今年度コロナにより、中止となっており、交付はしない。</p>
<p>委員</p>	<p>ひまわり体操競技大会実行委員会は現在、存続しているため、補助金の予算案の中に入っているということか。</p>
<p>生涯学習課員</p>	<p>参加対象として、各学校の生徒や、先生で構成されているグループがあるので、大会を開催する場合は、交付を考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>来年度もコロナウイルスがどうなっているのか全く読めないが、何か視点を変えて開催できる方向に、工夫されたらよいと思う。来年度のこの場で「中止」の文字が、少なくなるように願っている。</p> <p><閉会></p>